

【小学生の部：会長賞①】

## 「同じ立場になって接する事の大切さ」

北海道・名寄市立名寄南小学校  
6年 大霜 優杏 さん

私の学校には、呼吸をすることが苦手で呼吸器を付けているのでしゃべることの出来ない一年生の男の子がいます。また、筋力が弱くバギーに乗っていません。

入学式の時、一年生の名札を付けているとある子から、  
「どうしてあの子はベビーカーに乗っているの？」  
と正直な声が聞こえてきました。

私も担任の先生から説明されたり、その子のお父さんが出したプリントを見たりしなければ同じ事を思っていたと思います。

私は、質問をしてきた子に、  
「〇〇くんは、ベビーカーじゃなくてバギーに乗っているんだよ。かっこいいよね。」  
と声をかけました。

するとその子は、  
「そうなんだ。いいな～。〇〇も乗りたい。」  
と納得してくれたようでした。

翌日から一年生の朝のお世話が始まりました。一年生が教室に入ってくると六年生みんな、

「おはよう!!」  
と言っていました。でもその男の子が来た時、  
「おはよう!!」  
とあいさつしたのは私だけでした。

「何であいさつしないの？」  
と聞いたらみんな、  
「どう接したらいいかわからなかった。」  
と答えました。

「その気持ちもわかるけど、その男の子も自分達と同じようにあいさつされなかったら悲しいし、あいさつされたら何らかの形で返してくれるよ」  
と伝えました。

最近は、私だけじゃなく私のクラスの人その子にあいさつをしています。

その子も手をふってくれたりします。たまに、私が声をかけたり手をふるよりも先に手をふってくれることもあります。話しかけたらうなづいてくれたり、手元にある「あいうえお表」で教えてくれます。その子がそうしてくれるのは、私達が「その子の立場だったら」ということを考えて接してきたからだと思います。

どうしたらその子と一緒に遊べるのか考えるのが難しく、なやんだ事もありました。でも、その子がみんなと一緒に遊んでいたりと、ありがとうと伝えてくれた時、いっぱいなやんでよかったなと思いました。

どうやったらみんなと一緒に遊べるのかを考えた時のキーワードが「同じ立場だったら」ということです。同じ立場だったらという事を考えたから、みんなと一緒に遊べたし、接している時にその子がどう思っているのかがわかりました。

私はその子から同じ立場で接する事の大切さを学びました。これからも、その子だけでなく色々な人と「同じ立場で」という事を考えながら接していきたいです。